



# 三代の書き込み 尾上松緑

二月の歌舞伎座で『三人吉三白浪』の和尚吉三をつとめました。祖父の二世尾上松緑、父の初代辰之助も得意とした役で、私自身は通しでやるのは三回目なのですが、今回いただいた台本を私は一度も開いてないんです。

というのは、一回目の台本に祖父のやり方、父のやり方、先輩から教えていただいたことを全部書き込み、二回目、三回目もまた書き足していくので、新しいものを開く必要がないんです。お稽古で教わったこと、演じてみて感じたことを都度、刻み付けていく。そうして作っていく台本は非常に愛着のあるものになってきますし、一冊そのものが思い出でもあります。

他の演目の台本も同じで、どれも開くと書き込みでいっぱいになっています。

そこから汲み取れるのは言葉だけではなく、これはものすごく大事だとおのれに刻みつけるような筆圧で書いていたり、満足りく演技ができなくて非常に悔しい思いがにじむ筆跡だったり、生の感情が残っているんですね。その圧は、同じことを記入したとしてもタブレットには残らない。紙に鉛筆ないしペンだから残せるし、伝わる。それは私にとって非常にありがたいものです。

祖父や父の台本はもちろん、家にとつてあります。祖父の台本などはもう六、七十年前のものですから黄色くなっています。ふたりの書き込みを全部写していたら自分の台本が真っ黒になりますから、なるほど、ここはこうだと思つたところを写していくんです。

昔は自分のためだけでしたが、最近はこちらを読めば息子の左近がその役を最低限は理解できるように、ということを意識するようにしました。「これじゃわかんねえだろうから、もうちょっと書き足しておこうか」とか。もし私が今死んでも、三代の台本をひもとけば、ああ、ひいお祖父さんはこうやってたんだ、お祖父さんはこうやってたんだ、お父さんはちよつと違うけど、これは誰々さんに



おのえ・しょうろく●1975年、東京生まれ。81年、二代目尾上左近として初舞台。91年、二代目尾上辰之助襲名。2002年、四代目尾上松緑襲名。清新で雄々しい芸風に定評。舞踊家としても祖父と父の跡を継ぎ、藤間流家元・六世藤間勘右衛門を襲名。オンライン配信番組「紀尾井町家話」は先月第百夜を迎えた。屋号は音羽屋。

歌舞伎座ギャラリーにて

言われてこういうふうにしたんだな、というのわかるようになっていいると思います。

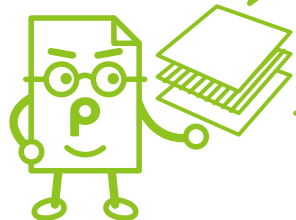
ただまあ、それはこちらの考えですから。ある時、「親父、台本見せてよ」と言うまで、こっちから「台本見るか」とは言いませんよね。今回いただいた『三人吉三』の台本は「これ要る？ おまえにやるよ」ってさらのまんまあげましたけど、それに何を書いていくか、どう使うかは本人の勝手です。

四月の「鳳凰祭」は新しい歌舞伎座の十周年ということで、親子で『連獅子』という日本舞踊の大作をやらせていただきます。歌舞伎の興行でこれを親子で踊るのは初めてで、非常に楽しみです。私自身もそうですけれども、あの舞台で大きい役をさせていただけることがどれだけ大事なことなのか重いことなのかを、息子がかみしめてくれる一カ月になればいいなと思っています。

## ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

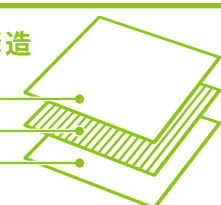
### 段ボールは、「3」がカギ。

1本ではもろい矢も、3本あわせれば強くなる。段ボールだってそうなんです。ライナと呼ばれる2枚のボール紙と、その間に入っている中しんと呼ばれる波形のボール紙。この3枚で支えあうことで、紙とは思えないほど頑丈に。なんと重さ1t以上のクルマを、段ボール4つで支えられるほどなんです。



### 段ボールの基本構造

- ボール紙 / ライナ
- 波形ボール紙 / 中しん
- 接着面



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

<http://kamitsubu.com/>

次回は5月4日・11日特大号です。

提供：日本製紙連合会 <https://www.jpa.gr.jp>

Photo : Shiro Miyake